

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

様式1(小・中)

学校名		佐賀市立中川副小学校
1 前年度 評価結果の概要	・本校の大きな課題である学力向上については、なかなか結果や手ごたえを感じるまでには至っていない。児童が「主体的・対話的」に学習に取り組める授業づくりを進めていくために、全校で共通した取組を徹底する必要がある。（語彙力・授業のふり返り・読書習慣など） ・委員会活動や他校児童、子ども園児との交流活動など、どの学年も人前で表現する場を設定することができた。今後は、教師主導の活動から、児童がやりたいことややるべきことを考えて計画・実践できるよう主体的な活動を仕組んでいく必要がある。 ・来年度のコミュニティ・スクールでの土台作りとなる1年であった。コーディネーターを中心に、どの学年も地域の方との交流や施設・店舗見学ができ、学習の幅が広がっていた。さらに地域との連携を図るため、学校に足を運ぶ人たちを増やすためにどのようなことができるかを考えていく。	
2 学校教育目標	気づき、考え、実行する子どもの育成 ～博愛の里 伸びゆくわれら 中小っ子～	
3 本年度の重点目標	①学力の向上 ②自己肯定感や自己有用感の醸成（きらり発見活動） ③地域連携（コミュニティ・スクール）	

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			
(1)共通評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・他者と協働しながら主体的に学び続ける児童を育成するための授業実践	○児童アンケートで「進んで友達と話し合って問題を解決しようとしている。」と回答する児童の割合70%以上。 ○家庭学習ががんばろう週間で各学年の目標時間を達成した児童の割合75%以上。	・校内研で取り組んでいる学級活動の「つかむ→話し合う→実践する→振り返る」のサイクルを意識して、毎時間の授業づくり、及び単元づくりを行う。 ・学期に1回家庭学習ががんばろう週間に取り組む。取組についてプリントやメールで周知する。また、全職員で家庭学習の内容や取り組み方について研修を行う。		・		・		・
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「友だちと仲良く話したり、困った人に優しくしたりしている」と肯定的な回答した児童80%以上。	・児童主体の人権集会や平和集会を行う。 ・6月のフリー参観で全学年道德の授業を公開する。また、学校だよりや学級通信等で道德の授業内容を保護者に発信する。 ・帰りの会等で、今日のほかほかについて言葉や活動について発表する場を設ける。		・		・		・
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「月初めのアンケートや教育相談週間を活用し、いじめや不登校などの未然防止に努めている」と回答した職員85%以上。	・毎月ここにアンケートを実施し、複数の職員で結果に目を通したり、教育相談週間を設けて児童への聞き取りをしたりするなどして丁寧に対応する。		・		・		・
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	○「良いことをしたり、頑張ったりしたとき、先生や友だちは褒めてくれる」と回答した児童85%以上。 ○「夢や目標をもっている」と肯定的な回答をした児童80%以上。	・きらりプロジェクトにて児童の良さや頑張りをを見つけ、カードに記録する。(週に1回程度) ・児童が自己判断や自己決定したことをキャリアパスポート等に明記させ、将来の夢や目標を意識化する。		・		・		・
	◎「博愛の里子どもづくり」の推進	○博愛の里である川副町がすきである等、肯定的な回答をした児童80%以上。	・佐野祭等地域に密着した学習に取り組む。 ・美化活動やJRC活動に、博愛の精神をもって取り組めるよう毎学期VS週間を設ける。教師も児童とともにVS活動を行い、学校全体で博愛の心を育む。		・		・		・
●健康・体づくり	㊟「望ましい生活習慣の形成」	○児童アンケート「毎日、早寝・早起きをし、朝ごはんを食べていますか。」の項目で「している、だいたいしている」75%以上 ○「家庭学習頑張ろう週間」で各個人で設定した目標就寝時刻を5日以上達成できた児童70%以上 ○児童アンケート「外遊びができる日は、運動場や中庭に出て体をうごかしていますか」に肯定的な回答70%以上	・保健・家庭科・特別活動の時間等を活用し食事・運動・十分な休養・睡眠が、健康によいことを理解させる。 ・「家庭学習頑張ろう週間」の前に就寝時間や睡眠時間を意識して生活できるような健康タイムを実施する。 ・健康委員会による昼の放送で外遊びを呼びかける。		・		・		・
	㊟「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	○児童アンケート「苦手な食べ物も一口はチャレンジしていますか」肯定的な回答85%以上 ○職員アンケート「食育を意識した給食指導を行っている」肯定的な回答90%以上。	・栄養教諭と連携し、全学級で食育に関する授業を1回以上行う。(学活、保健、家庭科など)		・		・		・
	㊟「安全に関する資質・能力の育成」	○児童アンケート「あなたは安全に気をつけて生活していますか。」の項目で「している、だいたいしている」90%以上。 ○避難訓練後のふり返りで、「自分で考えて行動できた」児童80%以上。	・交通安全教室を実施し、交通ルールを守ろうとする態度を育てる。 ・防災、防犯訓練にて、児童が主体的に考えたり、行動したりできるよう工夫する。		・		・		・
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・職員一人一人が出動時にその日の退勤時刻を設定し、職員室の出勤簿横のボードにネームプレートを貼ることで、目標達成できたか視覚的に把握できるようにする。 ・長期休業中に年休取得推進週間を設定し、連続して休暇が取りやすい環境をつくる。		・		・		・
	○業務における負担感の軽減を図る。	○チームの一員として、教職員間で協力して校務分掌等に取り組むことができる(A評価)割合60%以上	・担当校務分掌で3つの部会を作り、代表職員を中心に相談・協力しながら効率よく業務を進める体制をつくる。 ・チェックリストを使って、個人の取組状況を毎月ふり返る機会を設定する。		・		・		・
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○「特別支援教育研修会や支援会議等において、児童への指導・支援のあり方について共通理解し、日々の実践に生かしている。」肯定的な回答をした職員80%以上。	・毎月子ども支援会議を行い、児童への指導、支援のあり方について全職員で共通理解を図る。 ・外部講師を招聘するなどし、支援を要する児童への理解、指導及び支援の在り方等について学ぶ研修会を行う。		・		・		・
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目									
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○地域連携	○児童と地域人材との協働活動を通して、地域に開かれた学校を目指す。	○地域の人に、すすんであいさつをすることができた(A評価)児童の割合70%以上。 ○学校が、JRCや地域との連携活動に取り組んでいる(A評価)と回答した保護者の割合65%以上。	・記念事業や地域施設との連携活動への積極的な参加。(子どもガイド・佐野祭など) ・全学年、授業内での地域ボランティアの活用。 ・地域人材の顔と名前が一致するよう、写真を使った紹介コーナーの設置をすることで地域の人たちをより身近に感じることができるようにする。		・		・		・

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である